

あなたをご存じ?

Edith C. Batho によって書かれた『友情のランプ (A Lamp of Friendship)』はGWIの懐かしい思い出である。Virginia Gildersleeve 学部長、Rose Sidgwick、Caroline Spurgeon らが、第1次世界大戦のような大災害が再び起こらないようにと、女性による国際的な連盟を提案したということをあなたをご存じだろうか。1918年のある秋の夜、バーナード・カレッジの学部長 Virginia Gildersleeve と彼女のイギリス人の友人であるロンドン大学教授 Caroline Spurgeon とバーミンガム大学の Rose Sidgwick が、終わったばかりの第一次世界大戦のような大災害が再び起こることを防ぐには自分たちに何ができるかを話し合った。Spurgeon が、「国際大学女性連盟 (IFUW) を設立するべきだ」と提案したと言われている。そこで3人の女性は、「the Association of Collegiate Alumnae (大卒女性協会) に働きかけることに合意し、Sidgwick は「私たちは帰国して英国大学女性連盟と話し合わなくては」と述べた。Gildersleeve 学部長によると、この時が IFUW の誕生とされるが、そこから長い準備時間が必要だった。IFUW が正式に結成されたのは、1919年7月11日だった。第1回大会は1920年ロンドンで開かれた。アメリカ合衆国、イギリス、カナダ、チェコスロバキア、フランス、オランダ、イタリア、スペインなど8カ国の大学女性連盟が参加した。上記8カ国に加え、ベルギー、デンマーク、インド、ノルウェー、南アフリカ、スウェーデンの7代表も参加した。大会後間もなく、これらの代表団も無事、国別の協会になった。第2回大会は1922年パリで開かれ、そこでは、Otago 地域代表の Cameron 女史がニュージーランドの国代表も兼ねていた。IFUW の初期の大会や会談について親切に教えてくれたニュージーランドの Louise Croot に、GWI は感謝する。



前列左から Katharina Strub (会計) Geeta Desai (GWI 会長) Hazel Bowen (提言と教育担当副会長)

後列左から Basak Ovacik（募金担当副会長） Louise McLeod（マーケティング担当副会長） Rae Duff（法とガバナンス担当副会長） Eileen Focke-Bakker,（会員担当副会長）

GWI理事会 ジュネーブで開催

GWI の役員が直接会って話し合う、年に一度の会議が 2018 年 4 月 5 日から 9 日までジュネーブの GWI 本部で行われた。Geeta Desai 会長による進行のもと、役員と Stacy Dry Lara 執行理事が、印刷物「Mission and Advocacy」や「Membership and Communications」で概説した、「6 大目標戦略計画」の実行に向けた進捗状況を検討した。

スイスのジュネーブで 2019 年 7 月 25 日から 28 日まで、「教育による平和」をテーマに開催される GWI 第 33 回総会と百周年記念行事のための最終的な組織立てや計画の推進もこの会議の主要な目的であった。「スイス現地準備委員会」には百周年記念行事の企画上重要な諸要素の準備に関する議論のため本部に来ていただき、理事会は嬉しく思った。

GWI Update 2018 年 5 月 2 日号

SDG16 に焦点を当てて

ICTs（情報通信技術）はますます日常生活全体に行きわたり、今やあらゆる段階の教育に欠かせないツール（道具）である。しかし、これらの新しいツールはデジタル化社会のあらゆる人々、特に若者と弱者の立場にある人に新たなリスクをもたらす。と言うのも技術は、例えば、いじめをさらに有害なネットいじめに変えてしまうといった新しい課題を突きつけているからである。すべての人々、特に子どもたち、女性、少女たちをネットいじめから確実に保護することが、SDG16（持続可能な開発目標 16）、すなわち持続可能な開発のために公正で平和的、共生（包摂）的社會を推進すると掲げた、この目標の達成に向けた必須の要素である。目的は、世界中のすべての暴力や虐待を大幅に削減することである。その第 2 項『子どもの虐待、搾取、人身取引、および彼らに対するあらゆる形態の暴力と拷問を終わらせる』により、SDG16 にはまた特に、子どもに対する暴力の削減が開発にとって鍵となる領域だとの認識もある。この目標は、国連子どもの権利条約第 19 条と合致している。この条約は国が、子供たちをあらゆる形態の精神的または肉体的暴力から守るために適切なすべての措置（立法的、行政的、社会的にあるいは教育的と、どの措置であろうと）をとる義務があると断言している。19 条の適応対象には、心理的ないじめや大人や他の子供たちによる嫌がらせ、その中には携帯電話やインターネットなどの情報通信技術を媒体としたもの（いわゆる、ネットいじめ）も含まれる。それ故に、SDG16 を達成するために、潜在的な脅威の識別や、ネットいじめの問題に立ち向かっていく機会をつかむことが必要である。この点において、GWI はあらゆる課程の教育こそ、ネットいじめ解決の糸口を生み出すための主要な防御線であるとし、2016 年の第 32 回 GWI 総会において採択したネットいじめに関する「決議 1」の求める変革をもたらすために利用されねばならないと認識したのであった。

あなたのご存じ？

GWI が教育とリーダーシップの養成を通して女兒と女性に力をつけるプロジェクトを過去 40 年間支援してきたことをあなたのご存じだろうか。

GWI（当時 IFUW）は 1978 年にカウンターパート型（受け手、送り手が互いにわかる）支援事業を設立し

た。開発途上国の大学女性連盟・協会（NFAs）によって計画された援助に値するプロジェクトから、対象を選出し、当該国で継続していくための助成金を GWI が提供したのだ。その事業はのちに、アジア出身で初めて GWI（IFUW）会長となった Bina Roy に敬意を表して Bina Roy Partners in Development Programme（BRPID）と名付けられた。

Bina Roy 博士は GWI の NFAs 間の友好的で協力的な連携の力を信じて、カウンターパート型支援事業の推進を奨励した。今日では、BRPID は VGIF（バージニア ギルダースリーブ国際基金）と世界中の支援者からの寄付金によって資金を調達している。GWI の NFAs の約 60% が後援や寄付をして、その事業に参加してきた。先日、GWI は 2017 - 2018 年のプロジェクトを承認した。各々の価値あるプロジェクトの詳細は近日発表する。GWI は VGIF の継続的支援に感謝している。